

アスレティックトレーニング学学位プログラム（博士前期課程）							
履修モデル①：日本スポーツ協会公認AT資格の取得を視野に入れ、専門的実践力の基盤形成を目的とする場合							
養成する人材像	アスレティックトレーニング学を基盤に、主にスポーツ活動をしている者に対しコンディショニング（目的：パフォーマンスの向上/スポーツ外傷・障害の予防）や救急対応を適切に計画・管理・指導できる、高度専門職人としてのアスレティックトレーナーや関連領域における研究者の人材を養成する。						
教育研究の特徴	<p>本プログラムは、アスレティックトレーナーの学問的・職業的領域であるアスレティックトレーニング学を基盤とし、高度専門職アスレティックトレーナーおよび関連領域の研究者として必要な実践力と研究遂行能力の修得を重視している。スポーツ活動を行う者を対象に、パフォーマンス向上、スポーツ外傷・障害の予防、緊急時対応計画の立案、救急対応、競技復帰プログラムの作成等について、スポーツ医科学および救急医療学を基礎としたEBP（Evidence-Based Practice）に基づく学修と研究を展開する。</p> <p>また、大学院共通科目を通じて身体に関する幅広い学際的知識を体系的に修得するとともに、アスリートの一次救急から競技復帰に至るまでを包括的に扱うアスレティックトレーニング分野の特性を踏まえ、医学等の基礎的知識から専門的なコンディショニング、スポーツ外傷・障害予防に関する学修・研究へと段階的に深化する教育課程を構成している。</p> <p>本プログラムにおける主な研究領域は以下のとおりであり、学生は自身の研究テーマに応じて履修科目を選択するとともに、他学位プログラムの科目も柔軟に履修することで、主体的かつ発展的な学びを行うことができる。</p> <p><研究領域></p> <p>・アスレティックトレーニング学 ・コンディショニング ・リコンディショニング ・スポーツ外傷予防 ・スポーツ障害予防</p> <p><日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験資格の取得について></p> <p>本学位プログラムでは、以下の条件を満たすと「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験資格」の取得が可能です。</p> <p>・学部にて、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目Ⅲをすでに取得しており、以下の「水色の科目」を履修し単位を取得することに加え、体育科学学位プログラムの「スポーツバイオメカニクス特論」および「スポーツ医学特論」を履修し、単位を取得すること。</p>						
修了後の進路	後期課程への進学/中学校・高等学校教諭（保健体育）/アスレティックトレーナープログラムを有する大学・専門学校教員/スポーツ競技団体アスレティックトレーナー/医療機関スタッフ（アスレティックリハビリテーション担当など）/スポーツ指導者/一般企業人（健康管理担当）など						
科目区分	年次・学期		1年次		2年次		
			前学期		後学期		
大学院共通科目 (必修)	身体総合学術論	2					
研究群共通科目 (選択)	保健医療学研究法特論 臨床運動生理学特論	2 2			スポーツ救急演習	2	
専門科目 (選択)	実践研究法特論 アスレティックトレーニング学特論 コンディショニング演習 機能解剖学特論（AT） アスレティックトレーニング実習Ⅰ	2 2 2 2 (通年)	リコンディショニング演習 スポーツ外傷・障害予防学演習	2 2	アスレティックトレーニング評価学演習 アスレティックリハビリテーション演習 アスレティックトレーニング実習Ⅱ	2 2 (通年)	アスレティックトレーニング実習Ⅱ 2
研究指導科目 (必修)	アスレティックトレーニング学研究Ⅰ	2	アスレティックトレーニング学研究Ⅱ	2	アスレティックトレーニング学研究Ⅲ	4	アスレティックトレーニング学研究Ⅳ 4
履修方法	<p>次の履修方法により、30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 大学院共通科目: 2単位</p> <p>(2) 共通科目: 6単位</p> <p>※「保健医療学研究法特論」は必修</p> <p>(3) 専門科目: アスレティック学学位プログラムの科目から10単位以上</p> <p>※「実践研究法特論」、「アスレティックトレーニング学特論」は必修</p> <p>(4) 研究指導科目: アスレティックトレーニング学研究Ⅰ～Ⅳの12単位</p> <p>※研究指導教員が担当する科目を選択する。</p> <p>※他の学位プログラムが履修を認める科目を受講することはできるが、修了要件単位数に含まれない。</p>						
修了要件	2年以上在学し、学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文に代わる実践の場における課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。						
その他の学修・研究			実践課題学期小論文（論文に代わる研究成果）		中間発表会 実践課題学期小論文（論文に代わる研究成果）		実践課題学期小論文（論文に代わる研究成果） 実践課題学期小論文の審査 最終試験

アスレティックトレーニング学学位プログラム（博士前期課程）

履修モデル②：実務経験を有する者（AT資格保有者を含む）を対象とし、専門的実践力の高度化を目的とする場合

養成する人材像	アスレティックトレーニング学を基盤に、主にスポーツ活動をしている者に対しコンディショニング（目的：パフォーマンスの向上/スポーツ外傷・障害の予防）や救急対応を適切に計画・管理・指導できる、高度専門職人としてのアスレティックトレーナーや関連領域における研究者の人材を養成する。							
教育研究の特徴	<p>本プログラムは、アスレティックトレーナーの学問的・職業的領域であるアスレティックトレーニング学を基盤とし、高度専門職アスレティックトレーナーおよび関連領域の研究者として必要な実践力と研究遂行能力の修得を重視している。スポーツ活動を行う者を対象に、パフォーマンス向上、スポーツ外傷・障害の予防、緊急時対応計画の立案、救急対応、競技復帰プログラムの作成等について、スポーツ医科学および救急医療学を基礎としたEBP（Evidence-Based Practice）に基づく学修と研究を展開する。</p> <p>また、大学院共通科目を通じて身体に関する幅広い学際的知識を体系的に修得するとともに、アスリートの一次救急から競技復帰に至るまでを包括的に扱うアスレティックトレーニング分野の特性を踏まえ、医学等の基礎的知識から専門的なコンディショニング、スポーツ外傷・障害予防に関する学修・研究へと段階的に深化する教育課程を構成している。</p> <p>本プログラムにおける主な研究領域は以下のとおりであり、学生は自身の研究テーマに応じて履修科目を選択するとともに、他学位プログラムの科目も柔軟に履修することで、主体的かつ発展的な学びを行うことができる。</p> <p><研究領域></p> <p>・アスレティックトレーニング学 ・コンディショニング ・リコンディショニング ・スポーツ外傷予防 ・スポーツ障害予防</p>							
修了後の進路	後期課程への進学/中学校・高等学校教諭（保健体育）/アスレティックトレーナープログラムを有する大学・専門学校教員/スポーツ競技団体アスレティックトレーナー/医療機関スタッフ（アスレティックリハビリテーション担当など）/スポーツ指導者/一般企業人（健康管理担当）など							
年次・学期 科目区分	1年次				2年次			
	前学期		後学期		前学期		後学期	
大学院共通科目 （必修）	身体総合学術論	2						
研究群共通科目 （選択）	保健医療学研究法特論	2			スポーツ救急演習	2		
	医療英語特論	2						
専門科目 （選択）	実践研究法特論	2	リコンディショニング演習	2	アスレティックリハビリテーション演習	2		
	アスレティックトレーニング学特論	2						
	コンディショニング演習	2						
研究指導科目 （必修）	アスレティックトレーニング学研究Ⅰ	2	アスレティックトレーニング学研究Ⅱ	2	アスレティックトレーニング学研究Ⅲ	4	アスレティックトレーニング学研究Ⅳ	4
単位数合計	14		4		8		4	
	18				12			
履修方法	<p>次の履修方法により、30単位以上を修得すること。</p> <p>(1) 大学院共通科目: 2単位</p> <p>(2) 共通科目: 6単位</p> <p>※「保健医療学研究法特論」は必修</p> <p>(3) 専門科目: アスレティック学学位プログラムの科目から10単位以上</p> <p>※「実践研究法特論」、「アスレティックトレーニング学特論」は必修</p> <p>(4) 研究指導科目: アスレティックトレーニング学研究Ⅰ～Ⅳの12単位</p> <p>※研究指導教員が担当する科目を選択する。</p> <p>※他の学位プログラムが履修を認める科目を受講することはできるが、修了要件単位数に含まれない。</p>							
修了要件	2年以上在学し、学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文に代わる実践の場における課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。							
その他の学修・研究	実践課題学期小論文（論文に代わる研究成果）			中間発表会 実践課題学期小論文（論文に代わる研究成果）			実践課題学期小論文（論文に代わる研究成果） 実践課題学期小論文の審査 最終試験	